

## 大学の世界展開力強化事業（平成23年度採択）事後評価結果表

大 学 名	東京工業大学
整理番号	B - I - 2
事 業 名	グローバル理工系リーダー養成協働ネットワーク

### ◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

(総括評価)  <b style="font-size: 2em;">A</b>	取組状況、目標の達成状況ともに事業計画を概ね満たしており、事業目的は実現された。
(コメント)	<p>交流プログラムの枠組みについては、日本人学生の気質や、米国の大学との関係に基づき、学生の留学への動機付けのための超短期派遣から長期派遣に至るまで多様なプログラムが用意され、着実な成果が得られている。</p> <p>質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成については、全ての学生に対し修学・研究計画書を提出させることにより、きめ細やかな指導がなされ、研究教育の質が担保されている。今後は、開講科目の取扱いを含め、交流プログラムをいかに学位課程の中に位置付けるかについて、更なる議論が望まれる。</p> <p>学生交流のための環境整備については、本事業を通じて、外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための体制整備が進められるとともに、大学全体の国際化も進展しており、補助期間終了後もその体制を活用した交流が活発に行われることが期待される。</p> <p>目標の達成状況について、派遣、受入学生数は当初設定した目標をいずれも達成している。外国語力は当初設定した目標値を達成できなかったが、帰国後の英語力向上に効果があったことが確認できている。</p> <p>なお、学生の派遣実績については、全体の目標値を上回っているものの、超短期派遣の人数が含まれた数値となっている。超短期派遣プログラムは学生の動機付けのための新たな取組として高く評価できるが、当初計画していたプログラムのみで考えると、目標値には達していない。また、受入について大変積極的な反応があった一方、派遣学生については3カ月以上の人数が少なかった。今後、双方向の交流学生数を増加させるため、これらの点について理由の検証を行うことが望まれる。</p> <p>本事業を実施することにより、学生の国際的なモビリティに関わる基盤の整備と多数の相手大学とのネットワークが構築された点は高く評価でき、今後より踏み込んだ協働教育プログラムが展開されることを期待したい。</p>